



プ

ア



41号

認知症治療病棟の設置/認知症特集/認知症カフェのお知らせ/
下関学術講演会/下関病院夏祭り/行事報告/スタッフのわ

認知症治療病棟の設置

医師 中山 寛人

わが国は世界でも類をみない超高齢社会に突入しています。認知症者数も増加の一途をたどり、2025年には700万人を越えると推計されています。認知症への対策は喫緊の課題です。徘徊、ホームレス、ゴミ屋敷、自動車運転、財産管理、虐待など社会的な問題は山積です。国の認知症施策として、平成27年に認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)が策定されましたが、その中で「認知症の状態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供」として医療の期待される役割が挙げられています。認知症の人は様々な心理的な葛藤などから、気分が不安定になったり、ありもしない考えに支配されたり、多彩な症状を呈することがあります。このような時、住み慣れた地域での生活を支援していくため、適切な時期に適切な医療や生活支援、情報提供をしていくことが、専門医療機関としての責務であり役割でもあります。症状の内容や程度、また取り巻く環境によっては、入院治療をご提案する場合があります。

当院では認知症の人への入院機能を強化・整備するため、平成29年9月に認知症に特化した病棟を設置しました。これまでの「老年期病棟」から「認知症治療病棟」と名称を変更し、32床から50床に増床しました。認知症の人の多彩な症状や障害を評価し対応するため、また退院後のご本人への生活支援をより充実させるため、様々な取り組みを進めています。病棟内では認知症勉強会や事例検討会の開催、多職種ミーティングなどを通じて医療やケアの質を高め、病棟横断的には多職種で構成された認知症サポートチームを組織し、認知症カフェや家族会の運営、認知症関連の臨床研究、情報発信を進めています。病棟の内外を結ぶ地域連携室も設置し、入院前と退院後に関わる医療・介護・行政等の関係機関との連携も進めています。

それぞれの専門職が矜持をもって、障害や苦悩を抱えた認知症の人のところに寄り添い、さらに入院中だけでなく“入院前-病棟-退院後”の連続した流れを意識したケアを行い、今後も認知症の人とご家族にとって住みよい地域づくりのため出来る限り支援していければと思います。

今後皆様方のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

認知症特集

認知症カフェのお知らせ

認知症カフェは、認知症の人やそのご家族、地域の方や専門職等の誰もが立ち寄ることができ、一緒に過ごすことができるカフェです。全国には現在2,500か所以上の認知症カフェが設立されています。

ここ下関にも、魅力的な認知症カフェが多く開かれ、地域の皆さんの憩いの場となっています。そしてこの度、当院にも新たに認知症カフェを設立する運びとなりました。「ららカフェ」という名前は、下関病院の夏祭りにて、参加者の皆さんの投票によって決定しました。

ららカフェでは、3つのエリアにて皆様をお迎えします。ご高齢の方やお若い方(お子さんも大歓迎です！)、ご近所の方、他所で活躍されているスタッフさんなど、どなたでもお気軽にお立ち寄りください。

心理士 小川 咲子

ららカフェ先行開催

日程：2017年11月25日(土) 14時オープン
 場所：下関病院附属 地域診療クリニック
 1階食堂
 お問い合わせ先：(083)258-0338
 担当：小川・大原



認知症の症状チェック

何度も同じことを言ったり、尋ねたりする	<input checked="" type="checkbox"/>
同じ間隔で物を置く/切るなどができなくなった	<input checked="" type="checkbox"/>
最近の出来事や予定をすっぽり忘れることが増えた	<input checked="" type="checkbox"/>
頻繁に置き忘れたり、探し物をすることが増えた	<input checked="" type="checkbox"/>
興味や意欲がわかず、趣味などもやめてしまった	<input checked="" type="checkbox"/>
普段使っている家電製品などの操作に戸惑うようになった	<input checked="" type="checkbox"/>
料理の味が変わった(しょっぱい、味が無いなど)	<input checked="" type="checkbox"/>

認知症疾患医療センター(下関病院附属地域診療クリニック内)

電話：(083) 258- 2140 ・お気軽にご相談ください

専門医療相談：精神保健福祉士が認知症に関するさまざまな相談に応じ、保健医療・介護機関と連携を図りながら必要な支援をします。

電話相談：直接、専用電話にてご相談をお受けします。

費用：無料です。

下関病院附属地域診療クリニック 地域支援部 部長 富田 宜與



下関学術講演会

平成29年7月21日

下関メンタルヘルスセミナー 「女性とうつ」

若松町こころとひふのクリニックPCIT研修センター長 加茂 登志子 先生

去る7月21日に下関病院附属地域診療クリニックで、下関メンタルヘルスセミナー「女性とうつ」というタイトルの講演会が開催されました。講師の先生は加茂登志子先生です。先生は女性のメンタルケアの専門医として全国に名を馳せるスペシャリストです。女性に多い心の疾患は‘気分障害‘‘不安障害‘‘摂食障害‘であることや性ホルモン・社会的立場・ライフスタイル・ライフサイクルなどの性差も要因とも言われていました。女性の心と身体を総合的に診て下さるということで女性にとっては、まさにスーパードクターです。また、男性にとっても女性の心と身体を理解するうえでは大変参考になったのではないのでしょうか。



一般的に‘女心と秋の空’と言われるように女性のこころは変化しやすいものです。病院のような女性の多い職場では女性のメンタルヘルスは重要と考えますが、女性は自分自身の心身の健康管理は勿論のこと、男性の皆様には今後とも是非ともご配慮お願い致します。

診療支援部 部長 藤田しのぶ



平成29年7月28日

平成29年7月28日に当院の夏祭りが開催されました。今年は昨年度より1ヶ月早い開催にも関わらず、多くの地域の皆様にご来場いただき、例年以上の盛り上がりとなりました。出店は昨年と比較して新たに山茶花による綿菓子など店舗数も増え、各バザー品数の増量も行いましたが、早々に売り切れとなる光景がみられ、大変賑わっていました。



今年は託児所からの出し物もあり可愛いお子様に観客のみなさんが癒されていました。

祭りの締めには毎年恒例の馬関連平家踊り保存会による公演があり、大迫力の平家太鼓の演奏も伴って、地域の方々より大変盛り上がって良かったとのご感想を頂きました。

当院の夏祭りは地域の皆様とふれあう貴重な機会として、重要な恒例行事となっており、学生ボランティアや地域の皆様のご協力のもと当初の目的が果たせたのではないかと考えています。

最後に、今年も多くの企業や各団体の皆様からのご協賛を頂きましたことに厚く御礼申し上げます。



- (株) タカラ 様
- 西日本医療サービス (株) 様
- (株) 岩多屋 様
- 栄食メディックス (株) 様
- 松田清掃 (株) 様
- (株) 大林組 様
- キングラン中四国 (株) 様
- リコージャパン (株) 様
- (有) 華企画 様

作業療法科 衛藤 隆浩



行事報告

多機能型事業所は一とあ一す勝谷 見学ツアー



院外活動の一環として、平成29年5月10日・11日の2日間にわたり、『多機能型事業所は一とあ一す勝谷』を訪ね、見学ツアーを実施させていただきました。

参加者の感想としては、「実際に働くということは大変なことだと実感させられた」、「興味がわいた。パン作りや小物作りがすごいと感じた」などが挙がり、就労への関心の高さが伺えました。今後も入院中から地域移行に目を向けた企画を行っていきたいと思います。ご協力いただいた、『多機能型事業所は一とあ一す勝谷』には心よりお礼申し上げます。

作業療法科 科長 田名橋 佳伸



病院内カラオケ大会



先日、病棟行事であるカラオケ大会を実施しました。各病棟から希望者を募り、多くの患者さんが参加しました。女性病棟では可愛い衣装や華やかな衣装を身につけた方、男性病棟ではダンスをしながら歌唱された方もおり、見学している方もとても楽しそうに鑑賞していました。アンケート結果では、「様々な年代の曲が聞けて楽しかった」という意見も聞くことができました。私自身も普段病棟の中での活動では見ることの出来ない患者さんの新たな一面を見ることが出来たように思います。楽しんでいた患者さんも多い為、今後も継続してカラオケ大会を実施していきたいと思います。

作業療法科 柴崎 真末



みのりの丘 梨狩り



女性病棟は9月13日に、男性病棟は9月22日に、多病棟合同の院外活動として、『みのりの丘』へ梨狩りに行って来ました。収穫を楽しみ、秋の味覚に舌鼓を打ち、景色を、風を、音を、季節を楽しんでいただくことが出来たのではないかと思います。多病棟合同にて実施したことで、普段は交流のない患者さん同士が意気揚々と会話している姿もみられました。また、入院生活が長引いている患者さんにとっては、気分転換や季節感を感じる意味でも有意義な時間になったのではないかと思います。次回はリフレッシュパーク、その次はみかん狩りを予定しており、多病棟合同での院外活動を継続していければと思います。

作業療法科 岩崎 僚太



つなげよう！

スタッフの

スタッフでつなげる、趣味はなし。



連載 24 回目の今回は 男子回復期病棟 末永 祐樹 さんです。

私の趣味の一つであるコンピューターゲームについて紹介したいと思います。

近年e-Sportsとして注目され、世界規模で大会が行われているものもあります。高額な賞金が出るものもあり、来年の1月には世界最大規模の大会が日本で初開催される予定です。

「ゲームなんて非健康的」と思われがちですが、スポーツ観戦をする方々とあまり違いは無いのではないのでしょうか？現実では出来ないことを楽しむことができるので人によってはいい気分転換になると思います。お子様がいらっしゃる方にはコミュニケーションツールの一つとしてもいいのではないのでしょうか？

次回は 精神保健福祉士 三原 あゆみ さんです。



編集後記

年間を通じ、とても過し易い季節になってきました。秋と言えば「スポーツの秋」が、思い浮かびます。皆さんは何かスポーツを継続的に行っていますか。もし行っていないのであれば、この季節をきっかけに始められてはいかがでしょうか。

(広報委員 樽見 裕也)

下関病院 広報委員会

〒759-6613

山口県下関市富任町6丁目18番18号

☎ 083-258-0338 FAX 083-259-8876

<http://www.mizunoki.jp>

shimobyou@mizunoki.jp

水の木会

検索

